



# 天文フィールドワーク

十一月十八日(金)から十九日(土)にかけて、佐用町にある兵庫県立大学西はりま天文台において、天文フィールドワークが実施されました。当日は、「なゆた望遠鏡」を用いて、冬の星座、星雲・星団、し座流星群、火星、木星などを観望しました。

- 参加者 十五名(29回生) 敬称略
- 二組 明石優衣 川江隼斗 南家亜衣 深澤莉緒
  - 三組 江見聡真 小松暖 高松航大 藤田夏穂 山田詩織
  - 五組 末政晴己 竹中友唯 中井翔一朗 中島輝 福本愛 米本春樹
- 引率の先生 谷口知明 貝賀初音

## 行事行程

- 十八日(金)
- 十六時五十分 理科講義室集合
  - 十七時 バスで天文台に向け出発
  - 十七時四十分 西はりま天文台に到着
  - 十八時三十分 開会式、夕食
  - 十九時三十分 なゆた望遠鏡での観望
  - 二十時 入浴
  - 二十一時四十分 観望会に参加
  - 二十三日 就寝、希望者は冬の星座観測
  - 十九日(土)
  - 七時 起床
  - 七時三十分 朝食
  - 九時 閉会式、バスにて学校へ出発
  - 九時五十分 学校到着、解散

## なゆた望遠鏡の紹介

日本国内最大にして公開望遠鏡としては、世界最大級を誇る口径2mの経緯台式の望遠鏡。その力は100億光年もの時空を超えて宇宙の果てを見ることを可能にします。(西はりま展望台のHPから転載)

## 神秘的な夜

自分自身、とても星に詳しいというわけではなく、面白そうだからという理由で、天文フィールドワークに行きました。行く前は、仲の良い友達もいないし、寂しくなるかもしれないと思っていましたが、実際は、バス移動中に謎にUSJの話が出てきたり、夜中の観望では、先輩が恋バナを始めたりして楽しかったです。

なゆた望遠鏡で見たときは、説明を受けながらでした。例えば、星雲は同じガスから生まれた兄弟とか、星は自分たちと同じように死んでしまう。でも、死んだときに出るガスやチリなどによって、新しい星ができる材料になると知り、驚くとともに神秘的だなと思いました。

二十三日以降の観望では、僕は八回流れ星を見る事ができました。一回、一回流れるたびに、みんながあっけ流れた！やばっけって見てなかった。おそろしく速い流れ星だからオレでなきゃ見逃しちゃうね、と言っていて、面白かったです。三回願うことはできませんでした。



# 29回生の活躍

## 放送映像文化部 県総文で二つの佳作

放送部の一年生で作った、子ども食堂についてのラジオドキュメントが佳作に入選しました。一年生の放送映像文化部員は三人います。その三人が制作した「大人と子どもの狭間で」は、姫路の子ども食堂を取材して、子ども食堂が抱えている課題や、高校生にもできる協力などについての発表でした。また、個人でアナウンス原稿を作成して審査員の前で発表した上岡さんも佳作に入選しました。原稿の内容は一年五組の内田君の紹介をするというものでした。



受賞作品 「大人と子どもの狭間で」(子ども食堂を取材して) 部員 伊藤尚(四組)、上岡みちる(五組)、後藤美温(五組) (敬称略)

一つ上のステージを目指して

五組 上岡 みちる さん

「58番 今日、超低速通信、ポストクロッシングの話です。ポストクロッシングとは、世界中の人とポストカードを...」これは、今回兵庫県総合文化祭放送文化部門でアナウンスした原稿の冒頭です。放送は地味な印象があるかもしれませんが、原稿の良し悪し、アクセントや発音、スピードや間の取り方など、とても奥が深いです。一つの声が成績を左右する大会の会場は、静寂に包まれ張りつめています。胃が痛み、震えが止まらなくなる緊張感が、ちよつと癖になっています。次は入賞できるように頑張ります。

## 西播高校読書感想文コンクール優秀賞

夏休み課題に読書感想文がありました。校内佳作に選ばれていた竹中さんの「氷の上の少女たち」が西播のコンクールに出品されていました。西播でも優秀賞に選ばれ、十二月二十三日の全校集会で表彰状の伝達がされます。竹中さんに受賞の感想を書いてもらいました。

なお、西播の最優秀賞を附属の二年生が受賞しています。さすが28回生の先輩です。

読んだ本「ブラザーズ・ブラザー」 佐原ゆかり著 河出書房新社刊  
感想文タイトル「氷の上の少女たち」

選ばれて嬉しいです

五組 竹中 友唯 さん

私が「読書感想文が選ばれた」という話を聞いたのは、芸術鑑賞会の直前でした。その時は狂言の方に意識が向いていました。後になってやっとその話を理解しました。校内予選の後、先生に手伝っていたいただきながら推敲を重ねた結果が出て安心しました。次があるかは分かりませんが、次があるならもつと良い結果が出るように頑張りたいです。



## 国立科学博物館主催 第39回植物画コンクール佳作

見出しのコンクールで、四組の松尾美桜さんが佳作に入選しました。国立科学博物館の植物画コンクールに馴染みのない人が多いと思いますので、受付期間や応募要領、展覧会の開催について紹介します。なお、表彰状は令和五年一月に附属高校宛で届くことになっています。

主催 独立行政法人国立科学博物館  
名称 第39回植物画コンクール 中学生・高校生の部  
各賞 文部科学大臣賞(一点)、国立科学博物館賞(一点)、筑波実験植物園賞(一点)、佳作(十名)、準佳作(二十名)  
受付期間 令和四年九月一日(木)〜十月三十一日(月)  
募集部門 小学生の部、中学生・高校生の部、一般の部の三部門  
審査員 西野範夫(元上越教育大学教授)、邑田仁(東京大学名誉教授)、石川美枝子(植物画家) など  
受賞作 会場 筑波実験植物園、住所 茨城県つくば市天久保  
展覧会 会場 国立科学博物館本館、住所 東京都台東区上野公園  
開催期間 令和五年二月十八日〜三月五日  
開催期間 令和五年開催予定(HPで発表)

## 第39回植物画コンクールを終えて

四組 松尾 美桜 さん

花冷えの城崎を歩いていたら、風に吹かれてゆらゆらゆれている薄い黄緑色の花を初めて見つけ、新緑の候、カサカサ音を立てる葉を見つけてました。そうして、その時その時を描き写した作品が、今回の私の植物画「シダレヤナギ」です。正直、とても悔しい結果です。附属中の時から挑戦してきた、今年で四回目の挑戦です。中学の先生方がとても褒めてくれたので高校に上がった今年こそは、と思っていたのですが、反省点としては「シダレヤナギ」の理解・表現が不十分だったということです。来年に向けて、これまで以上に植物を観察して次に進みたいと思います。せめて、上から三つの賞がいいなあと思っています。



## 12月以降の行事予定(1年生関連)

- 12月
- 25日(日) 冬季休業開始 ~1/9まで
- 1月
- 6日(金) CS選抜試験
  - 9日(月) 成人の日
  - 10日(火) 課題考査
  - 12日(木) 寮生集会(1・2年生)
  - 14日(土) 大学入学共通テスト~15日
  - 16日(月) 寮生を送る会
  - 17日(火) 第4回高大連携授業
  - 21日(土) 進研実力試験
  - 22日(日) 全統模試(校外・希望者)
  - 26日(木) 中学入試会場準備  
16時完全下校
  - 27日(金) 生徒登校禁止
  - 28日(土) 附属中学入試 生徒登校禁止
- 2月
- 13日(月) 高校入試会場準備  
16時完全下校
  - 14日(火) 生徒登校禁止 ~17日
  - 15日(水) 高校推薦入試
  - 27日(月) 卒業式予行、表彰式